

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター
令和7年度 年報

オホーツクの「森」から



発行にあたり

オホーツク地方は、世界自然遺産「知床」や網走国定公園等、自然環境に恵まれ貴重な動植物をはぐくむ地域です。

常呂川森林ふれあい推進センターは、オホーツク最大の河川である常呂川流域を中心に、国有林野を活用し特定非営利活動法人等（以下 NPO という）と連携して行う森林づくり等と森林環境教育等森林と人とのふれあい活動の推進を主体として位置づけ活動しています。

この度、令和7年度の主な活動内容をまとめましたのでご覧ください。

目次

森林環境教育～森林と人とのふれあい活動の推進～
国有林野を活用し NPO 等と連携して行う森づくり
活動区域「オホーツクの森」

森林環境教育～森林と人とのふれあい活動の推進～

当センターでは、森林と人とのふれあい活動に取り組んでいます。

○緑と花の市民の会・「緑の募金」街頭キャンペーン



■寒さをカラ元気で吹き飛ばせ！？

令和7年4月21日（月）、北見市「緑と花の会」主催で、「緑の募金」街頭キャンペーンに参加しました。

例年、この日に限って寒いという記憶がありますが、やはり当日は4月の中でも寒い日で、低温・強風・雨となりました。

はじめに北見駅前の環境広場で出発式を行い、「緑と花の市民の会」会長と辻北見市長の挨拶を受けたのち、参加した10団体、総勢約60名が、それぞれ持ち場へ移動、ふれセン職員2名オホーツクの会5名の計7名がひと区画担当となり参加しました。

寒い日も手伝ってのことか少ない人通りでしたが通りかかった市民の方からは快く募金をしていただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

その後広場へ戻り募金箱などを北見市「緑と花の会」にお渡しし解散、寒さをカラ元気で吹き飛ばしての募金活動でした。

○令和7年度 オホーツクみどりネットワーク全体会議

今年度は実施されませんでした。

○オホーツク木育の会総会とマイスター交流会

北海道が主体となった木育マイスター制度が平成22年度よりスタートし14年が経過し各振興局が事務局となり、これまで活動を続けてきていますが、同様な活動を国有林でも各ふれあい推進センターや森林管理署において、森林環境教育として取り組んできました。

同様な活動を担う組織が同じ地域でそれぞれに活動をしているなら、オホーツク管内で横の連携をとるために意見交換や交流をしたいとのことでオホーツク総合振興局林務課とオホーツク木育の会から今年も呼びかけがありましたが、日程の都合により今年度は参加できませんでした。



■昨年の意見交換の様子

○網走市主催イベントの支援

6月16日（月）網走市美岬地区国有林において、自然散策ガイドの現地打合せを行いました。



■美岬のヤチダモ、高すぎて全部は写せません！

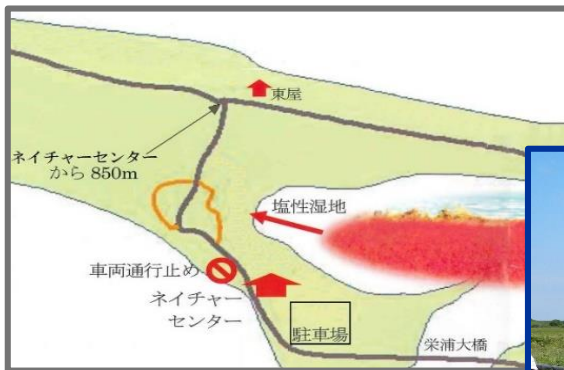
これは、6月22日（日）市が主催する春の木育イベントで一般市民を対象に自然散策会を行うことから、自然散策ガイドの依頼があり実施したものです。

16日当日は、市職員・オホーツクの会会員・センター職員から8名が参加して「森の巨人たち百選」に選ばれた「美岬のヤチダモ」の遊歩道コースにおいて、樹木の見分け方を中心に自然散策を楽しむ方法を学習しました。

残念ながら22日イベント当日は朝からあいにくの雨で森林散策会は中止となりました。

○常呂小学校・「ワッカネイチャースクール」

ワッカネイチャースクールとは常呂小学校の校外学習の一環として依頼を受け、常呂川森林



■ワッカ原生花園とネイチャーセンター

ふれあい推進センター（以下センターと言う）がワッカ原生花園にて開催しているものです。



■これからなにをするの？ 楽しそ〜〜だから真剣！

7月1日（火）、3年生8名、先生2名が随行、センターから1名の職員、網走南部森林管理署から職員3名が参



■サウンドマップ
ん〜〜難しいけどなんか、楽しいね♪

加し総勢14名で開催しました

当日の天気は快晴、連日の暑さの中ではありませんでしたが心地の良い浜風も吹いており、所長のあいさつの後、網走南部森林管理署の若手職員2名によるアイスブレイクでじゃんけんゲームを行い子供たちの顔がほころんだ後、フィールドビンゴの用紙を渡し説明して、早速ビンゴに取り掛かってもらいました。

コースはワッカ原生花園施設のサイクリングロードと接続する遊歩道を活用しましたが、



■これな～に？知らなかったね

現地はサロマ湖の湖口工事のため、関係車両の通行があるので舗装道路ではなく遊歩道でサウンドマップ（自分を中心として聞こえる音をイメージで絵に描いてみることを描いた後に自分に聞こえた音、何の音を描いたのか説明してもらいましたが、ひとりひとりの個性が現れていて「なるほど」と感じました。

再び、フィールドビンゴを再開してビンゴカードにある「あわ」とか「とげのある木」とか「オレンジ色の花」などを探し全員、全ビンゴを達成して満足気でした。

最後に出発地点に戻り、子供たちはスクールバスに乗りお別れしました。

後日常呂小学校の校長先生をはじめ携わった教員の方より、子供たちの自然に親しんだ楽しさに満ちたお礼の手紙をいただきました。

網走南部森林管理署長並びに職員の皆様、お手伝いありがとうございました、大変助かりました。

網走南部森林管理署長並びに職員の皆様、お手伝いありがとうございました、大変助かりました。

○北見市内小学校森林環境教育のお手伝い

令和6年の年末、コロナに明け暮れた日々から人々の生活が落ち着きを取り戻しつつある中で、森林環境教育の取り組みとして、まず北見市内の小学校を対象にお手伝いを申し出ることになりました。チラシを作成し取り組みの内容をわかっただけのように北見市の教育委員会に各小学校に申し入れることについて了承いただくため説明を行いました。

教育委員会の担当者に説明をしたところ、この取り組みに賛同いただき北見市内の各小学校にメールを届けていただけることになりました。

その後、相内小学校及び大正小学校よりご連絡いただき令和7年11月に取り組みを行いました。

相内小学校（17日（月））で1・2年生14名で「見てふれて思いのままに森の子!?松ぼ



■真剣そのもの！ 思いがあふれ出る

っくりアート」と名を打ち、いろいろな種類の松ぼっくり等をグルガンを用いて思い思いに作品を作り上げる授業となりました。

大正小学校（20日（木））で「見てふれて森の子!?松ぼっくりでツリーアート」と名を打ち、1・2年生13名は大きな松ぼっくりにアカエゾマツの葉をボンドでつけてその後装飾を施した松ぼっくりツリーを作成しました。

常呂川森林ふれあい推進センターの2名では人手が足りないため、森林ボランティア「オホーツクの会」にそれぞれ2名お手伝いを願って、子供たちがのびのびと自由な発想ができるように、安全に取り組みができるような環境づくりに努めました。

どちらの小学校も45分間授業3・4時限（中休み5分）の時間帯で児童も作成に没頭し休憩時間もこちらから「ちょっと手を置いて休もうか」と言わなければならないほどで、その集中力には頭が下がります。また、出来上がった作品は見本よりセンスあふれるものばかりでした。

今後ともこのつながりを大切にして森林環境教育の取り組みを広げていきたいと思えます。

○オホーツクの森子ども探検隊

7月26日（土）、北見市端野町国有林内にある「オホーツクの森」において、子供たちが自然に親しむイベント「オホーツクの森子ども探検隊」を常呂川森林ふれあい推進センター



■松ぼっくりで何作ろう？ それはできてからの楽しみ！



■これからなにをするの？ 26の瞳がパツチリぱつちり！

2名と森林ボランティア「オホーツクの会」13名との共催で、網走中部森林管理署2名・オホーツク総合振興局2名の支援を受け実施すべく計画しました。

しかしながら、当日は連日の猛暑で一息つける曇り空の天気予報でしたが雷雨となり、予定していた森林探検や川遊びは中止とし、急遽事務所会議室において「松ぼっくりのクラフト」「葉っぱのフロッタージ

ユ」「万華鏡」づくりをしました。

夏休みの初日でもあり、参加した子供は5名と少なかったですが、どのお子さんもそれぞれの



■浮かび上がる葉っぱきれいだね！フロッタージュ

の工作に真剣そのもの。それぞれ完成した作品の出来栄えに大満足の表情を浮かべ、記念撮影時には作品の説明に話が止まりませんでした。

この日のためにせっかく持たしてもらったお弁当もみんなで食べることができました。

最後に「はっぱのがみ」という紙芝居の読み聞かせを所長が行いましたが、先ほどまでの話声が嘘のように静かになり真剣に物語を聞き入っていました。

帰りの時間となり見送りをされたお子さん

の中には「まだ帰りたくない」といった声も上がっていました。急な予定変更でしたが無事に一日を終え、お子さんたちが自然に触れることの大切さと難しさを改めて実感できた一日となりました。

皆さんお疲れさまでした。



■どうです、すごい力作ぞろいでしょ

〇山の日記念「藻琴山森林散策会」

「山の日」を祝日制定された記念として平成28年から行っている森林散策会ですが、コロナ禍や悪天候のためしばらく開催できませんでしたが、昨年は7年ぶりに藻琴山で開催することができました。

しかしながら銀嶺水を少し過ぎたあたりで雷雨に見舞われ引き返すこととなりました。

今年こそは山頂登頂を含む全行程の散策をと意気込み、オホーツク総合振興局、網走南部森林管理署、常呂川森林ふれあい推進センターの3者で運営し、



■昨年の藻琴山森林散策、見て・聞いて・ふれて・感じて！

準備も滞りなく終えて8月26日（火）に一般参加者とスタッフ含めて、総勢47名で当日を待つばかりとなりました。

しかしながら、開催直前に知床・羅臼岳で登山者がクマに襲れ命を落とす痛ましい災害が発生しました。

現地国有林を管理する網走南部森林管理署長からその対応のため、藻琴山森林散策会の中止について申し入れがなされ、オホーツク総合振興局、常呂川森林ふれあい推進センターとともに同意し、参加予定の皆さんに中止の趣旨説明を行いました。

気象のみならず動物による被害をまざまざと見せつけられ、登山や森林散策の取り組みの難しさを肝に銘じることを改めて教えさせられました。

○森林へおいでよ！パネル展

8月29日（金）～9月7日（日）、北見市緑のセンターにおいて森林ボランティア「オホーツクの会」との共催で、オホーツク地域の森林の魅力を伝える「森のパネル展」を開催しました。

この催しは平成23年から行われており、オホーツクの森に咲く花や野生動物のほか、当センターや「オホーツクの会」の活動内容をパネルにして展示しました。



■松ぼっくりアート、想像力は無限に広がる

今年は、北見市緑のセンターが「ライトアップ・夜の温室オープンデー」を8月30日に開催するというので、「松ぼっくり工作」や「葉っぱのフロッタージュ体験」も併せて行い、このイベントの一役を担いました。

また、最終土・日曜日には「各種工作体験」と「ミニ森林散策会」といった盛りだくさんの内容を楽しんでもらいました。

工作体験では、二日間にわたり参加者が時間ギリギリまで楽

しむ姿もあり、子供たちの楽しそうな声で会場がにぎわっていました。

今年の「森のパネル展」は、夜の温室オープンデーが18時30分～20時までと短時間ながらも入場者数は約200人に上り、森のパネル展の開催期間の入館者数も昨年の2倍以上の494名となり、参加時間を工夫することによる効果と市民の関心の高さを感じさせられました。

○網走市主催イベントの支援

10月26日（日）、網走市美岬および網走市水産化学センターにおいて、網走市主催の秋の木育イベントが実施されました。

このイベントは森林散策とカトラリー作成を通じて木育を推進する取り組みです。

今年も網走市でカトラリーの木工クラフトを行うことになり、当センターでは森林散策のガイドの依頼を受け、オホーツクの会の協力も得て美岬のヤチダモ（林野庁の森の巨人たち百選）を中心とした遊歩道の動植物や環境についてお話をさせていただきました。

当日は、天候にも恵まれ約1時間にわたり紅葉する木々、その景色を堪能しました。

森林散策後は水産化学センターへ移動し、箸やスプーンなどのカトラリー作成が行われました。

○オホーツク総合振興局・木育推進取り組み支援

10月22日（水）遠軽町丸瀬布の町有林において、オホーツク地域の主要産業に対する理解の推進を図る取り組みの一つとして、日本体育大学附属高等支援学校1学年42名による「オホーツクおとの森」を活用した林業体験のフィールド学習の実施にあたり、今年もオホーツク総合振興局の支援要請を受け協力させていただきました。

昨年までは津別町チメック湖周辺の道有林で実施していましたが、適地がないことから遠軽町に場所を移しての実施となり、例年併せて実施していた森林散策は実施見合わせとなりました。

当日はまず、ヤマハミュージッククラフト北海道の工場で、アカエゾマツの森林から供給さ



■倒木・枝の除去処理 安全作業を忠実に



■松ぼっくり拾い 何事も一所懸命です

れた木材が製品となる過程を見学し、いい素材がいい音を奏でることを学びました。

昼食後はアカエゾマツの人工林の現地へ向かい、ヤマハミュージッククラフト北海道からの要望を受け、クリスマスに合わせたヤマハ銀座店でのPR活動に使用する松ぼっくり拾いを行い、その後林業体験としてアカエゾマツの枝打ちを行いました。

いずれの作業も生徒たちは指導に当たった方の話をよく聞いて一所懸命に作業に取り組み、一人の怪我もなく作業を終えました。

当日はあいにくの天気で、雨が降ったりやんだりの空模様でしたが、幸い生徒たちの実習時間内は雨が持ちこたえ、終了時には生徒からお礼の言葉をいただき、後片付けの終了とともに音を立てて雨が降り出しました。

○森林ボランティア・オホーツクの会支援活動

10月25日（土）、北見市端野町「オホーツクの森・森の家」で森林ボランティア「オホーツクの会」主催の「炭づくり&色いろ食べ隊」が18名の参加により行われ、常呂川森林ふれあい推進センター2名も参加・支援活動を行いました。

毎年恒例となるこのイベント、オホー



■化粧炭 今年の出来はどうでしょう



■味覚堪能しました。

ツクの会の行うイベントとしては年内最後となる取り組みで、それぞれが持ち寄った松ぼっくりや毬栗やとうきび等々をスチール缶にいれて薪ストーブで過熱、火の番をする化粧炭づくりの担当、秋の味覚たっぷりのお食事準備の担当、さらには展望台より雪を抱いた知床連山や網走湖の絶景を楽しみ、紅葉

のじゅうたんを踏みしめ紅葉のトンネルをくぐるなど、秋の森林散策を楽しむグループに分かれ、参加者の皆さんはそれぞれの秋を満喫したようでした。

今後の森林ボランティア活動に、秋の魅力を目から耳から味覚からいただいたパワーをいかに発揮させることでしょうか。

上記以外にも、オホーツクの会による「夏・秋・冬の森林散策会」には、基本的に各種貸し出し等の支援を行いました。

○森林の魅（味）力を感じよう！

今年度についても実行体制が整わないため休止としました。

次年度以降については実行体制も含めて検討が必要です。

国有林野を活用し NPO 等と連携して行う森づくり

○自然再生モデル事業企画運営協議会

自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成17年10月に発足しオホーツクの森内「自然再生モデル林」における森林づくりの活動や今後の森林の取り扱いを検討しています。

今年度の企画運営協議会による現地検討会は、常呂川森林づくり塾で自然再生モデル林の樹種転換エリアの現況調査を行い、そのデータを元に開催する予定でしたが、その準備段階で現地に大型の蜂が飛び交うことがわかり、駆除も試みましたが大型のササの茂みにより巣の特定が難しくいずれの取り組みも中止せざるを得ませんでした。

また、令和8年3月に自然再生モデル事業企画運営協議会を書面会議で行い、今後の企画運営案などについて承認をいただきました。

○野生生物自動撮影調査

森林総合研究所からの要請に基づき「自然再生モデル林」において野生生物の生息動向を確認するため行われてきました。その後森林総合研究所からの要請も終わりセンターとして独自にその後も続けてきましたが、センターの体制も急速に変化・縮小したことから続けることが困難となり令和5年度から休止せざるを得なくなっています。

○オホーツクの森づくり

6月15日（日）北見市と網走市にまたがるオホーツクの森、その一角にある「自然再生モデル林」において、令和7年度常呂川森林ふれあい推進センターのイベントのスタートである「オホーツクの森づくり」を参加者12名センター職員2名で行いました。

この取り組みは、多様な樹種が混在していたであろう100年前の森林を目指して、ストローク人工林の一部に設定された樹種転換エリアで林業体験を通して森林に対する理解を深めることを目的として行うものです。



■表示板設置作業、手なれたものですね～

当日の作業内容は2つの班に分かれ、各班事前に山採りし仮植えしておいた苗木の掘り取りと2か所への補植作業、さらにはプロットの刈りだし作業です。

天候は暑すぎず寒すぎずで山仕事にはちょうど良いはずでしたが、補植用のミズナラの苗木の掘り取り、補植箇所へ植え付け穴を掘り植えつける一連の作業を終えるとじたと心地の良い汗が額にひかりました。

それもそのはず現地はクマイザサが生い茂り、その根はスコップもはじき返すほど張り巡らされており、少しずつ植穴を掘り広げ苗木の根が入り込む大きさになるまで広げ、根を浮かさないようしっかりと根付くように思いを

詰め植えつけ、やっとの思いで2か所補植作業を終えました。

その後は木々のないササに覆われた箇所へ移動し、発芽を促す作業として刈りだし掻き起しが有効かプロットを設定し各班1か所ずつその作業を行いました。

参加者からは「一本の木を植えるにもこんなに大変だとは思わなかった」「カマでササを刈る際何度もはじかれて一苦労した」と山仕事の重みを口にしていました。

午後からはオホーツクの森の一つ「古の森」遊歩道を森林散策しました。

ここ数年この種のイベントに参加する方が減ってきていましたが、今回は旭川から木製品を作る仕事をされている方が「森林づくりを直接見て感じて学びたい」と駆けつけ、センターとしてこの取り組みを続けていく励みとなりました。

○常呂川森林づくり塾

9月28日（日）、北見市端野町の国有林「オホーツクの森」においてセンター職員2名・参加者7名により「森林づくり塾」を開催しました。



■ がんばれ～

が、林内に大型の蜂の飛来が多数確認され、巣があることが安易に予想できたことから林内作業を中止し、午後から予定していた森林散策を行いました。

散策の途中の小川でサクラマスが産卵のため遡上しているところも観察ができ、参加者からは「一部作業が中止になったのは残念でしたが、次回も参加したい」との感想もいただき、参加者の皆さんは、森の香り、心地の良い風を感じながら自然と親しむ時間を過ごせたのではないのでしょうか

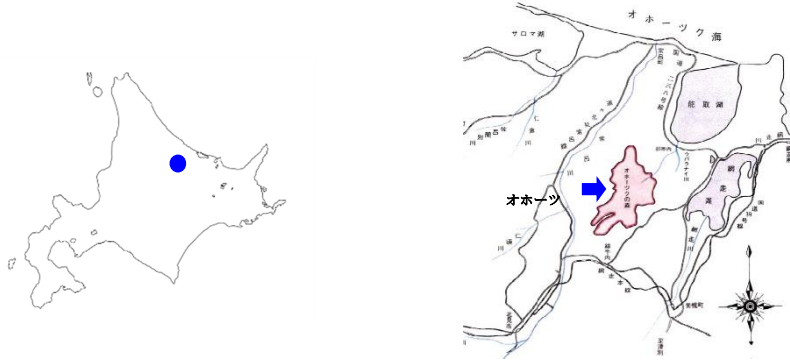
このイベントは、林業体験を通じて森林の持つ役割を理解していただき、森林再生や森林づくり活動に興味をもってくれる人が増えることを目的に実施しています。

今回、「オホーツクの森」に設定している自然再生モデル林内の一部樹種転換エリアで植生調査とミズナラの補植を予定して



■ 森林散策の一コマ

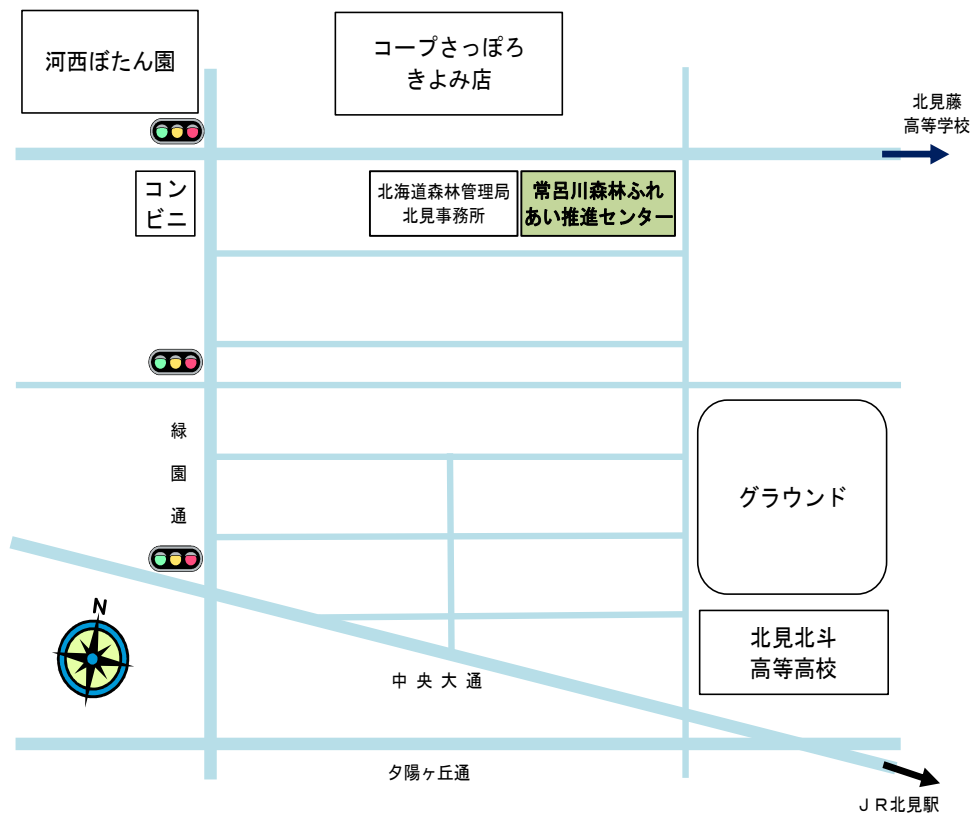
活動区域「オホーツクの森」



この案内図と、現地交差点にある道標の丸数字は、位置が合致しており、現在地の確認に便利です。

区間距離		凡例
	赤色ルート(①～⑩) 23.1km	古の森
	青色ルート(⑥～⑨) 7.9km	主要道路
	緑色ルート(④～⑳) 6.9km	その他道路
	黄色ルート(㉑～㉓) 7.9km	オホーツクの森入口指す標
	桃色ルート(⑥～⑫) 1.3km	道路案内図
	自然再生モデル林ルート(⑤-④①-④②-④③) 2.3km	位置番号
	環境教育実践コース(④～④①) 2.6km	

センター所在地



林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

〒090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11の3

【TEL】0157-23-2960

【mail】h_tokoro_f@maff.go.jp



表紙：森林環境教育・学校での木育の一コマ寄せ集め

